



# 酒造好適米「吟のいろは」通信

令和5年1月発行

宮城県美里農業改良普及センター



## 1月の「吟のいろは」

今年度に栽培された「吟のいろは」の作柄を振り返るため、1月20日に作柄検討会を開催しました。R4年産の「吟のいろは」は7月中旬の大雨の影響もあってm<sup>2</sup>あたり籾数が目標を下回る方が多いなど、生育量が不足したり、稈長（稲の茎の長さ）が長くなり一部ほ場で倒伏などがあったため収量は目標に達しませんでした。千粒重が大きく、心白発現率やタンパク質含有率も前年並みで、品質面では高いレベルを維持できました。



同日には県庁担当課と連携した栽培研修会も開催され、各生産者のサンプルに関する分析結果について説明を行いました。

県庁からは、概ね良好な品質だったが、一部過乾燥気味のサンプルも見られたことから、適正な生育量を確保して目標とする収量を目指すよう説明がありました。



また、酒米としての品質分析についても説明があり、R4年産は粒が大きく、吸水性や米の溶けやすさ、タンパク質等の各項目とも適正な範囲との説明がありました。

会場からは品質に関する質問が出されるなど、生産者の関心の高さが窺えました。

次年度の「吟のいろは」の作付面積は拡大していくようで、今後は「吟のいろは」のお酒がより多くの方の目に留まるものと期待しています！